資料１

令和4年度　学校教育自己診断結果および分析

● 実施時期　令和４年 12 月

● 回　　答　生　徒：74 名（15 名増）　保護者： 11 名（１名増）　教職員： 20 名

※昨年度：生　徒：59 名　保護者： 10 名　教職員： 21 名

1. 生徒の自己診断結果

○肯定率が高くなった項目	肯定的意見（回答A･Bの合計）（％）	R3	R4
15	学校で地震や火災などの災害がおこった場合、どのような行動をとればよいか、具体的に知らされている。	84.5%	97.2%
30	１人１台のタブレット（コンピュータ端末）を使って学びを進める機会がある。	77.6%	97.2%
3	学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。	91.5%	95.8%
7	教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。	89.8%	95.8%
27	人権の大切さについて学ぶ機会がある。	89.8%	95.8%
20	悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	85.7%	93.1%
16	学校は、みんなが楽しくおこなえるよう学校行事を工夫している。	87.9%	93.0%
24	学校は、進路についての情報を知らせてくれる。	82.8%	88.9%
9	授業やホームルームなどで、学校以外の先生方から話を聞く機会がある。	78.0%	86.1%
17	あなたは学校行事（体育祭や文化祭をなど）に楽しく取り組んでいる。	71.9%	85.7%

・ほぼすべての項目において昨年度よりも肯定率が上昇した。「１５．災害時の行動」「３０．Chromebook の活用」「１７．学校行事への取り組み」の項目が昨年度よりも肯定率が大きく上昇している。Chromebook の本格的な運用開始や教員のさまざまな工夫や取り組みによって、その結果を生徒が肯定的に捉えていることがうかがえる。コロナ禍で制限があり在籍生徒数が減少していく中、行事の工夫や授業の工夫などの学校づくりを進めていきたい。

・「３・２０・１６・２４」の項目も高い肯定率を示しており、教員とのコミュニケーションや学校のことについても肯定的に捉えていることがうかがえる。また、「７・２７・９」など授業の項目も高い肯定率を示しているので、教員の授業などの工夫や取り組みが生徒の求めるものに結びついていることがうかがえる。引き続き生徒の課題や背景を踏まえ、生徒に寄り添った指導を展開したい。

○肯定率の低い項目、低くなった項目	肯定的意見（回答A･Bの合計）（％）	R3	R4
10	環境、国際理解、福祉ボランティアなどの新しい課題について学習する機会がある。	71.2%	71.4%
28	授業や部活動での活動を通して、地域の人々とかかわる機会がある。	63.8%	72.9%
6	授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。	71.2%	76.7%
1	あなたは学校へ行くのが楽しい。	66.1%	77.8%
21	教室以外に、保健室などで落ち着ける場所がある。	75.9%	83.1%
4	授業はわかりやすく楽しい。	91.5%	89.0%

・「４．授業はわかりやすい」に関する項目では、肯定率は下がったものの高い肯定率を示している。その他の項目については、全体と比較すると低い肯定率であるが、昨年度よりも高くなっており、学校全体の課題として教員の工夫がうかがえる。この低い項目が高い肯定率を示すことができるよう次年度以降も授業の工夫や改善をしていくことが必要である。

・昨年度開きの大きかった「１」と「４・１７」の差が縮まった。これもさまざまな取り組みや工夫によるものだと考えられるので、次年度も継続して、授業以外の学校生活の場面で 生徒が楽しめる時間を増やしていくことが必要である。

2. 生徒、保護者、教職員の診断結果の比較

○肯定率の高くなった項目

「学校に対する項目」

生　徒：学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。《95.8%》
保護者：学校は子どもの教育について家庭と積極的に連携している。《100 %》
教職員：生徒指導において、家庭との緊密な連携ができている。《100 %》

「教育活動に対する項目」

生　徒：授業はわかりやすく楽しい《89.0%》学校へ行くのが楽しい《77.8%》
　　学校は、みんなが楽しくおこなえるよう学校行事を工夫している。《93.0%》
保護者：授業がわかりやすく楽しいと言っている《81.8%》学校へ行くのを楽しみにしている《81.8%》
教職員：生徒のレベルに応じた分かりやすい授業をつくる努力をしている《１００%》
　　学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている《95.0%》

「学校に対する項目」では、昨年度と同様に教員と生徒・保護者との連携やコミュニケーションに関する項目で肯定率が高かった。日常的に様々な場面において、教員が生徒や保護者との連絡を密に行っていることがうかがえる。

「教育活動に対する項目」では、昨年度と比べて生徒と保護者から「学校や授業が楽しい」などの項目が高い肯定率を示した。教員が生徒の学力や学習状況を踏まえて授業や学校行事の内容や展開を検討し、生徒・保護者がそれを肯定的に捉えているという関係性がうかがえる。授業改善や学校行事の工夫の結果、生徒にとって「分かる・できる授業」の展開を学校全体で取り組む姿勢が定着し、学校行事が楽しいなどの肯定的な意見が増え、楽しいと思える生徒が増えたと捉えられる。

○ 肯定率の低い項目

「学校に対する項目」

生　徒：環境、国際理解、福祉ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱなどの新しい課題について学習する機会がある。《71.4%》
保護者：この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。《36.4%》
教職員：地域の人々と接する機会を持っている。《30.0%》

「教育活動に対する項目」

生　徒：授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。《76.7%》
保護者：子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。《81.8%》
教職員：生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的な進路指導を行っている。《75.0%》

「学校に対する項目」では、昨年度と同様「地域の人々との関わり」「保護者の行事への参加」の肯定率が低い結果となった。地域との連携やさまざまな課題に対しての学習など生徒が社会参画の経験を積むための取り組みを検討したり、保護者に対して行事参加への案内などを検討していく必要がある。

「教育活動に対する項目」では、生徒、保護者で挙げた項目に関しては全体と比較すると低い肯定率ではあるが、昨年度と比較すると概ね改善傾向にある。新カリキュラムや観点別学習状況評価が導入され、教員の取り組みや工夫が改善につながったのではないかと考えられる。教員の項目は昨年度と比較して肯定率は下がっている。今年度より学校として系統的な進路指導を行えるように改善を進めているが、数年かけて定着していけるように工夫をしていく。